株式会社エフピコ
2027 年 3 月期 第 2 四半期 決算説明会 質疑応答（サマリー）
（2026 年 11 月 2 日）

Q：上期の市場全体の動向と貴社の状況、中長期的な需要見通しについて教えてほしい。
A：第 2 四半期は天候不順の影響もあり市場全体はほぼ横ばいだったが、当社はシェア拡大により市場を上回る伸びとなった。下期は食品値上げによる消費への影響を想定する一方、中長期では惣菜需要の拡大を背景に市場は年 2～3%程度の成長を見込んでいる。

Q：食品消費税率の引き下げが実現した場合、来年度の数量への影響を教えてほしい。
A：店内飲食との税率差を背景に、外食大手を中心としたテイクアウト強化によりプラスを見込んでいる。さらに介護分野等の需要増による押し上げを期待している。

Q：弁当・惣菜の少量化の今後の見通しと年末商戦などの大型容器の小型化傾向、およびそれらに対する貴社の対応を教えてほしい。
A：米価高騰を主要因とした容器のサイズダウン需要には、主力 6 シリーズに 107 型を拡充しシェアを獲得した。足元では米価の下落によりこの動きは一段落しているものの、このように機動的に金型投資できる対応力は当社の競争優位性となっている。また、年末やお盆向けの大型容器も帰省人数の減少を背景に小型化傾向にあり、需要の変化に合わせた品揃えを強化している。

Q：剥がせる容器について、カラートレーで培ったラミネート技術に加え、真空圧空成形と定位置成形をどのように組み合わせて付加価値を生み出しているのか。また、技術的に何が難しかったのかを教えてほしい。
A：従来の熱板成形は色柄の位置合わせがしやすい一方、高速での生産が可能な真空圧空成形は位置精度の確保が課題だった。今回、真空圧空成形における定位置成形技術を確立したことで、剥がし始めるための「きっかけ（つまみ）」を作ることが可能となり、剥がせる容器を実現した。

Q：2030 年 3 月期の目標について、「1 桁後半の成長」の位置づけや大型投資を踏まえた中期的な利益成長のイメージについて教えてほしい。
A：2030 年 3 月期の目標に変更はない。原油・ナフサ価格など不透明な外部環境や新素材（OPTENA・FORTENA）の立ち上がりを見極める必要があると考えている。今後のマーケティングの状況等を踏まえて、より精度の高い見通しを改めて提示していく。

Q：新 OPP の展開領域や市場開拓の状況について教えてほしい。
A：新 OPP は食品向けに加えて、より大きな市場規模を想定する産業用途としてまずは住設分野での採用を見込んでいる。自動車分野ではオプションパーツは比較的早期に展開する一方、本採用はモデルチェンジのタイミングとなるため 5 年程度を要すると見ている。モノマテリアル化、軽量化、高い透明性が評価され、欧米を含む国内外のメーカーから高い関心を得ており、建材、医療、水槽、半導体工場向けの薬液タンク・配管など、幅広い用途に応じた高付加価値製品として提案していく。

以上